

## 実践報告

## 札幌市立中央小学校

### (1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習の研究」

- 人権の意義、内容や重要性について理解し、自分の大切さや他の人の大切さに気づき、人権を尊重しようとする態度を養う。

### (2) 実践の内容

【実践①】校内研究「内容項目 B 主として人との関わりに関すること」

#### ○ ねらい

- ・「主として人との関わりに関すること」について、発達の段階に応じた手立てを研究する。
- ・内容項目の系統性を明らかにし、全校で共有する。

#### ○ 学習内容

- ・第一学年 部内研「はしのうえのおおかみ」【B7 親切・思いやり】
- ・第二学年 部内研「よかったよ」【B9 友情・信頼】
- ・第三学年 部内研「日曜日の公園で」【B10 相互理解・寛容】
- ・第四学年 部内研「つまらなかった」【B10 相互理解・寛容】
- ・第五学年 部内研「すれちがい」【B11 相互理解・寛容】
- ・第六学年 全校研「ロレンゾの友達」【B10 友情・信頼】

【講じた手立ての例】  
役割演技  
動作化  
ネームプレートの活用  
内容の構造化  
事前アンケートの活用

【実践②】4年 道徳『わたしの大切なもの』子どもの権利に関する公開授業

#### ○ ねらい

- ・世界の子どもたちの「大切なもの」を紹介した写真や文を通して、国際理解や国際親善について考えさせ、世界の人々が大切なものをいつまでも享受していけるよう、お互いに理解し合おうとする姿勢と態度を育てる。

#### ○ 学習内容

自分の「大切なもの」を振り返り、世界の子どもたちの「大切なもの」と比較させた。それぞれの国や地域によって生活や文化、習慣の違いに目を向けさせ、どんなことを考えてその絵を描いたのかを想像させることによって相手意識を生んだ。中盤で教科書には掲載されていないガーナのバケツの絵を提示し、何も情報が無い中での想像は、正しい相手の認識にならないことに気付かせ、「ガーナはどんな国なのか」「もっと知りたい」「他の国はどうか」という問いを生み、世界の国々を知ろうとするきっかけとした。終末では、資料や自分の考えとの比較から、お互いの違いを知ること、知ろうとすることが大切であることを明らかにしていった。



### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・校内研究の柱を内容項目 B としたことで、発達の段階で身に付けるべき道徳的価値と次の学年において目指すべき姿が明らかになった。
- ・児童が自己と向き合うための表現活動の工夫を行うことによって、児童が自分の考えを表すことができた。
- ・公開授業の研究討議では、道徳を中心とした子どもの権利を扱う授業づくりについて意見交流することができた。目指す子どもの姿から、どのように教材化を進めていけばよいか多数のアイデアが出てきた。
- ・第8条(4)と第28条を基軸として授業づくりを行ってきた。「障がい・民族・国籍・性別その他の…」という具体から各教科・領域と関連させて、教科横断的に取り組むことができた。特に総合的な学習の時間「レッツバリアフリー」では、車いす体験、点字体験、白杖体験、妊婦体験、高齢者体験などの様々な体験活動を通して、多様な他者への意識を高めることができた。

#### ② 課題

- ・学年毎に別葉の見直しを行ってきたが、次は6年間を貫いたカリキュラムを全職員で共有できる機会を増やしていきたい。
- ・道徳の授業における振り返りの場の吟味。児童が自分の考えの変容や深まりに気付くことができるような発問や書かせ方についての研究を進めていきたい。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・生きていく上で不可欠な「権利」を児童自身が知ることが大切である。児童がそれを知ろうとするためには、なにかしらのきっかけが重要である。そのきっかけは、日々の学校教育全体にある。
- ・「当たり前」となっている「権利」の条文一つ一つを読んでいくと、私たちの生活がいかに安心できるようになっていることがひしひしと伝わってくる。改めて「子どもの権利」を知るきっかけにしてほしい。